

神奈川県立こども医療センターオレンジクラブ



## ボランティアニュース

223号 2022年7月号

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦典

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

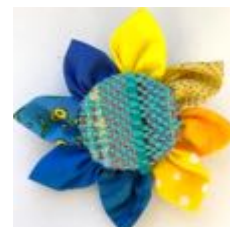
ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

### ウクライナの子どもたちへの支援

#### ～オレンジクラブでチャリティーブローチを作り募金活動～

手芸グループリーダー 谷内うらら



オレンジクラブでは、ウクライナの子どもたちの為に何かできないかと考え、4月からブローチを作り1個500円で募金活動を始めました。ブローチはウクライナの国花ひまわりをイメージしています。材料の殆どは、ボランティア室にある寄付で頂いた生地や今回の為に持ち寄り頂いたものを利用し、これ迄に600個ほど手作りしています。ひまわりの中心部に利用している布は、さをり織りの布でこれも寄付頂いたものです。

チャリティーブローチと募金箱は、ボランティア室や本館1階の患者図書前のマルシェや、リラのいえや事務局にも募金箱を置かせてもらっています。病院内の職場にも、加藤コーディネーターに案内してもらい、数か所周りました。今回のチャリティーブローチを通して、オレンジクラブの仲間、そして友人や知人に声を掛けて協力をお願いしたところ、友達から友達へたくさんの方が声を掛けて下さり、『何をしていいか?』『何かできないかと想っていたけど』と話す方が多く、みんなの想いは同じなんだなあ、と思いました。さらに、手作りのブローチを手にとった人たちは、「すごく丁寧に作っていますね」「このように病院でも支援活動をしていたとは驚きました」「ウクライナの惨劇を見ていると少しでも力になれないかと私も思っているの」と。

7月初め、募金を取りまとめ1回目の送金をしました。ウクライナの子どもたちを想いながら少しでも継続した支援するために、これからも募金活動は続けていきたいと思っています。テレビのニュースなどを観ていると、胸が締め付けられます。家族が一番、自分の国が一番、自分の家が一番でも、帰ることが出来ない様子が映し出される映像は、ほんの一部であり、見えないその向こうに少しでも少しでも心を巡らせて、多くの方からお預かりした募金を送らせて頂きました。

ブローチの作り手の皆さんも、それを手に取って募金してくれた方々も、快く協力頂き本当に有難うございました。

6月末までの集まった募金金額 248,000円で、1回目の募金先と金額は以下の通りです。

①ユニセフ 4万円 ②坂本龍太郎氏 20万円 (直接活動している方への支援として選択)

今回の必要経費 (材料費生地代 4,889円 コサージュピン代 4,696円 振込代 440円)

は、オレンジクラブ会計より出費いたしました。

坂本氏のプロフィール（詳細はネットで検索してみてください。）と、坂本氏からのメールです。

1986年岐阜県生まれ。静岡大学卒業、ポーランド国民大学国際関係学部卒業。その後アメリカ、ベラルーシの大学を奨学生として通い、2010年ポーランドで大学院に進学して以降、現在までポーランドに在住。大学院在学中にワルシャワ日本語学校を設立。現在日本語学校の教頭を務め、ウクライナ難民の支援を続ける中、日本のメディアに出演し、ウクライナ難民の現状について発信されている。

初めまして。ポーランド在住の坂本龍太郎です。

この度は20万円という大きなご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

こちらでは、特に戦争が始まってから2、3カ月が過ぎてから、通院や入院が必要な子供たちが多く避難してきました。彼らは避難先でも病院が確保できなければ外に出られず、やはりすぐに避難することができませんでした。また、今でもウクライナ国内には避難できずにいる子供たちがたくさんいます。彼らは避難したくてもできない、身体的な理由や病気を抱えているケースも多々あります。

彼らをサポートしていくため、来週の水曜日にも大量の医療物資をウクライナに運び込みます。支援物資には季節性や性別、子供か大人かなどによって大きく変わりますが、この4か月ずっと変わっていない支援物資はやはり医療物資です。

今回いただいたご支援のおかげで、より多くの人に、より長く支援を続けていけることができます。心より感謝申し上げます。

## 6月に開催したボランティア運営会議とボランティア研修会の報告

（ボランティア運営会議）6月7日八尋事務局長が座長で、病院関係者12名、ボランティア代表や各グループリーダー17名出席し、オンラインと対面で会議は開催されました。昨年度の活動報告会計報告がなされ、続けて今年度の活動方針が三木代表から話されました。主な内容は、活動の安全対策見直しと感染対策です。安全面では、2m以上の高所作業は行わない。タリーズの上には上がらず、常時ロープを設置し飾り付ける。クリスマスツリーの高さ制限等。

感染対策では、指定場所での食事や黙食や密にならない活動人数などについて方針を話されました。職員からは、外来看護科長が「月1回の外来ミーティングでは、活動の事、病院との情報交換、特に環境の事のアドバイスを頂いて勉強になっている。季節飾りは、お子さんやご家族に楽しんでいただいている。先日よくぞ見逃さずに対応してくれたという事が有った。診察に入れずにいた3歳ぐらいのお子さんがいて、そこにボランティアさんがサッとアンパンマンの指人形を渡したら、こどもさんはすーっと診察室に入っていった。子どもが魔法にかかった感じがした。感動する場面だった。」と話されました。

（ボランティア研修会）28日に開催した研修会には、初めての受講者が7名参加され、センターの説明や三木代表からボランティア活動の説明、そして感染制御室、感染管理認定看護師の横谷氏から「センターの感染対策」と題して講義があり、新型コロナに限らず、麻疹・水痘・風疹・流行性耳下腺炎などに関する説明もありました。現在は、麻疹は子どもより大人の感染者が多いことや、手指に試験用のウイルス液をすりこみ手洗いによるウイルスの残存数を調査した実験結果では、手洗いなしの約100万個が、ハンドソープで10～30秒もみ洗い後流水で15秒すすぐと数百個、60秒もみ洗い後流水で15秒すすぐと数十個になること等具体的に話されました。

皆様、手洗いが不十分な時は、ウイルスがどれくらい残っているかを想像してみてください。

## ぽぽんた通信⑤

きくちゃん

ぽぽんたの主要活動、本の貸し出し作業はすっかり定着して、選書 消毒はテキパキと進む。

又 返却作業も図書室司書さんの工夫で手早く 片付くようになった。病院の活動はまだまだコロナ禍で、アイシェードとマスクが顔の殆どを包むのでとても暑い。貸し出し作業が終わってからのミーティングで話題になったのは、赤ちゃん用の本や色のはっきりした本の注文が多いこと。お母さん方がベッドサイドで読み聞かせをしているそう。ぽぽんたの ZOOM おはなし会が刺激になったかな？ さて 対面のおはなし会ができるようになった時、本の貸し出しはブックトラックで移動するのかな？ 重いブックトラックを押して移動するのは体力的に難しくなっている私たちだ。クリアケースに 30 冊ぐらい選書して届ける今の方法も有りかもしれないな。

6 月の ZOOM ミーティングでは本の貸し出しについて話しあった。

メンバーの高齢化が一番気になるところだ。でも 皆 元気だ。自分たちの体力に合った方法で活動出来るように考えよう。

## ボランティア活動より 「オレンジクラブ」と「ちあふぁみ」共催でのプラネタリウム鑑賞会



### 七夕プラネタリウム

5 西病棟 保育士

今回、2 日間に分けてプラネタリウムを鑑賞できるように企画しました。プラネタリウムを行う部屋をセンサールームとして五感を刺激できるよう、風を起こしたりミラーボールを付け、BGM を流したりしながら、よりプラネタリウムを楽しめるよう工夫していきました。子どもたちの声として「火星が来る時が暑く感じた」や「星がとってもきれいだった」「もう一回見たい」「アニーもできて嬉しかった」と笑顔が見られました。ご家族からも「子どもと一緒に見るのができて良かったです」「入院中にこんなイベントがあるとは思いませんでした」と感謝の声が聞かれた。プラネタリウム視聴後に笹に飾りをつけるご家族もいて季節を感じる事ができました。

長期入院している子どもたちは、単調な生活の中で季節が感じにくい環境にいます。季節を感じる事のできる行事はとても大きな意味を持つと考えます。今後も季節の行事を通して、様々な体験が出来るようにしていきたいです。

開催して下さい、「オレンジクラブ」と「ちあふぁみ！」の皆様、そして星つむぎの村の担当者様、

ありがとうございました。これからもこの時期毎年プラネタリウムが見られることを願っています。

## ずっと待ってたホスピタル・クラウン活動の日

日本ホスピタル・クラウン協会 ベリー

今日はK、タタ、ミッチー、ベリーの4人で久々の訪問。活動は久しぶりだったので実はみんなドキドキ。加藤さんに検温と手の消毒をしてもらってよいよ活動開始！

先ずはみんなで待機していたら大勢のお友だちがお勉強のために移動していたんだ。みんなびっくりしてたけど笑いながら手を振ってくれたりして嬉しかったな～。それから窓の外からベランダ越しからこんにちは。あれ今日会えるのは1人の女の子だけ？そうかみんなお勉強に行っちゃったんだね…。それでもクラウン達はベストを尽くしたよ！マジックをしたり楽しいお話をしたりバルーンも消毒してもらって渡すことができたんだ。その後もう1人のお友達も発見。ドア越しだったけど近づいてきてくれて、たくさん笑ってくれたよ！その後は外来のホールでパフォーマンス。その日来ていたお父さんやお母さん、もちろん子ども達もみんなニコリ。最初は恥ずかしそうにしていた子達もどんどん巻き込まれて参加してくれたよ。やさし～な～。その後はクリーンルーム。病室の窓の外に廊下があるから、そこからみんなを笑わせちゃえるんだって。やったね！びっくりさせようと思っていたら、窓越しに椅子を出して待っていてくれた子たちもいたから、こっちがびっくり。でも、嬉しかったな～！バルーンを作ったり、マジックをしたり、電話で話したり、みんなでBTSの踊りも踊ったんだよ。

楽しかったな～！ コロナ禍なのにこうやってホスピタル・クラウンの活動を支えて下さって「ありがとう！」ってたくさん、たくさん言いたいな！本当にありがとう！

## ☆きょうだいお預かりグループの新しい活動

### 【ちょこっと お子さんを見守ります】

「ローソンが込んでいる時は大きなバギーは入れない。」あるお母さまのお話から、お買い物、トイレ、お食事の準備や後片付けの時など、ちょこっとお手伝いする活動を始めました。場所は、ローソンから食堂周辺です。お昼時、ボランティアの予定がつく時エプロンをして立っています。

お気軽にお声かけて下さい。



### 写真は

- ・ちょこっとボラ
- ・七夕飾り
- ・クラウンさん

